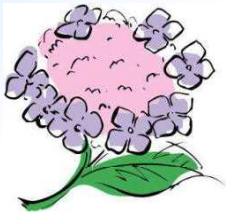
令和４年度　長小だより　６月号

かなれ

長久手市立長久手小学校
校長　森　田　浩　碁



校　　訓：*明るく　強く　正しく*

学校教育目標：*夢と希望をもち 進んで学び 挑戦し続ける 長小の子*

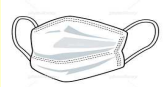
「褒めること」と「叱ること」

校庭の木々の緑も色濃くなり、すっかり初夏の様相になりました。先日は外部講師を招いて６年生の租税教室、５年生の陶芸教室を体育館で開催することができました。コロナ禍ではありますが、徐々に通常の教育活動ができるよう、授業はもちろんのこと、各種行事にも取り組んで参りたいと考えています。また、昨年まで中止しておりました水泳指導も今月１３日より感染防止対策を講じながら行っていく予定です。保護者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

さて、子どもがよいことをしたら「褒める」。悪いことをしたら「叱る」。ごく当たり前に思えることですが、実際にはなかなか難しいです。それは私たち大人が、褒めるべきタイミング、叱るべきタイミングを逸してしまったり、決めつけた目で子どもを見てしまったりすることがあるからではないでしょうか。褒められる回数の多い子は「よい子」。叱られる回数の多い子は「悪い子」。このように言われがちですが、１００％「よい子」も、１００％「悪い子」も、この世には存在しません。どの子も「よいこと」をすることもあれば「悪いこと」をすることもあるからです。

小学校６年間は、「物事の善悪を判断する力」や「よりよく生きる力」など、社会生活を送る上での基礎を培うときです。私たち大人は子どもを褒めるべきときには褒め、叱らねばならないときには何度でも根気よく叱り、人が生きる上での正しい価値基準を示していかなければなりません。それを基に子どもたちは他律から自律、そして自立への道を歩んでいきます。それが子どもたちの将来の幸せにつながるのだと確信しております。

また、ときに私たち大人は、「甘さ」と「温かさ」を取り違えて子どもたちに接していることがあります。「甘くて冷たい」アイスクリームのように、子どもたちを甘やかすだけ甘やかし、最後は冷たく突き放すのではなく、私たち大人は「温かくて厳しい」存在でなければなりません。その子の将来を真剣に考えたとき、心から厳しく叱る。しかしながら後々には、褒めたときと同じように、その子を思う温かい気持ちが必ず伝わると信じます。「褒めること」と「叱ること」は表裏一体なのだと思います。学校と家庭とが両輪となり、互いに手と手を取り合いながら子どもたちの成長に携わっていけたらと思います。今後とも本校の教育活動への温かいご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



マスクの着用について

文部科学省より「マスクの着用について」の考え方が示されました。それに基づいて、原則次のように対応していきますので、ご理解とご協力をお願いします。

【学校生活でマスク着用が必要がない場面】

- ○　体育の授業
- ○　運動部活動
- ○　登下校
- ○　運動場の外遊び（休み時間）

※　詳細は文部科学省ホームページをご参照ください。

https://www.mext.go.jp/content/20220525-mxt_kouhou01-000004520_02.pdf